

ケニア、マサイマラ国立保護区周辺、ゴイレ地域の野生動物保全活動

活動地域  ケニア

つづける助成

4年目

実践

野生動物保全に関わる意識の普及度 **70%**

野生動物個体数の増加 **40%**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **78%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

本年度の半分は、新型コロナウイルス禍の影響で地域に入ることができず、現地スタッフによる情報の収集や、視察に活動が限定された。政府の方針もあり座学等の実施が不可能となった。

■工夫した点

現地職員にスマートフォンを提供することで、ビデオ通話を駆使し、コミュニケーションを図った。同時にスマートフォンによる動画・静止画撮影により、現地の様子を記録した。



家畜囲いの設置－地域住民とともに－

課題

対象地域において、野生動物と家畜が居住地を共有することで、野生動物の生息地や水場が減少し、結果的に野生動物の個体数が減少している現状がある。

目標

対象地域において、野生動物と家畜の棲み分け (Zoning) を根付かせ、地域マサイの人々が自発的にエコツーリズムに関わることで、野生動物との共存を目指す。

活動内容と成果

活動地域は牧畜を生業とするマサイの人々が生活している地域であり、近年は野生動物による家畜被害が深刻化している。家畜が野生動物に襲われることを未然に防ぐため、家畜囲いの建設を実施した。今年度中に、5か所に家畜囲いを設置した。1か所につき、子どもから大人まで、20人前後の大家族で生活しており、本活動では、100人以上の地域の人々の生活を支える一端となったとともに、家畜を襲わざるを得なかった野生動物 (特に大型食肉目) が、家畜にアクセスできないことで、地域コミュニティに殺される事態を回避し保全された。



ヤギの搾乳 現地スタッフによる生活の記録



地域の野生動物 美しいエランド

全助成期間の活動を振り返って

前半は、活動地域全体の資源の把握やマッピング、地域の人々との交流に時間をかけた。長老やチーフへの挨拶など、地元のマサイの人たちの力を借りるなど、地域に根差した活動を心がけてきた。家畜囲いの建設が、新型コロナウイルス禍の影響で最終年度になったが、地域コミュニティとコミュニケーションを取りながら5か所に設置できたことは大変意義があった。軋轢緩和が促進され、野生動物との共存が実現可能に一步步近づき成果となった。

〒063-0033
北海道札幌市西区西野3条7丁目5-15
電話：011-667-4618



今後の
展望

今後は、地域のより多くの人々が、より積極的に野生動物保全に取り組むためにも、保全が地域の人にとってわかりやすく、目に見える「利益」を生み出すものとなり、活動がより促進されるようなシステム構築を目指していく。地域コミュニティが参加することで、持続可能を実現する。また、外部資金によらない、自主的に資金が回るような仕組みづくりのために、日本で動画配信やニュースレターの刊行など広報活動強化に努めたい。